# 命を消費する社会

**和 田 喜 彦**

奨励者紹介〔わだ・よしひこ〕
同志社大学EUキャンパス支援室長
同志社大学経済学部教授
〔研究テーマ〕エコロジー経済学、エコロジカル・フットプリント、鉱山・核開発の環境影響

そこで、王は答える。『はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

（マタイによる福音書 25 章 40 節）

こんにちは。EUキャンパス支援室の和田と申します。経済学部の教員でもあります。今日は、「命を消費する社会」と題して拙い話をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

**「アメージング・グレース」の誕生ものがたり**

さて、先ほどは、『讃美歌 21』の451番「くすしきみ恵み」を皆さんとご一緒に黙想させていただきました。この曲は、「アメージング・グレース（Amazing Grace）」として世界的にも良く知られている曲ですので、皆さんの中にもきっとご存知の方は多いのではないでしょうか。ご存知の方は手を挙げてみてください。

ああ、やはり多いですね。

では、この曲が出来た由来をご存知の方はおられますでしょうか。手を挙げていただけますか。

残念ながら、知っておられる方は少数派ですね。

それでは、簡単に説明させていただきます。作詞者は、英国人のジョン・ニュートン（John Newton）、1725年生まれです。彼の母親は敬虔なクリスチャンでしたので、幼いジョンに常に聖書を読んで聞かせていました。しかし、残念なことに、ジョンが7歳の時に亡くなってしまいました。ジョンは商船の指揮官であった父に従って船乗りになり、やがてアフリカからアメリカに黒人奴隷を輸送する、いわゆる「奴隷貿易」に手を染めるようになり、巨万の富を得ていきます。

そんなジョン・ニュートンに、1748年3月 10 日一つの転機がやってきました。ジョンが 22 歳の時のことです。彼が船長として任されていたグレイハウンド号という船が嵐に遭い、今にも沈没しそうな危険な状態に陥りました。彼は必死になって「どうか神様、あなたがわたしたちを助けてください！」と祈りました。彼が心の底から神に祈ったのはこの時が初めてでした。

すると、不思議なことに沈みかけた船の浸水は止まり、九死に一生を得たのです。

その後ジョンは1755年、船を降り、神学校に入って勉強に励み、やがて英国国教会の牧師になりました。また、奴隷貿易廃止運動にも身を投じました。こうして1772年に生まれたのが、「アメージング・グレ

ース」の讃美歌です（中澤、2013年、91―100頁）。

Amazing grace! How sweet the sound
アメージング・グレース、何と心地よい響きでしょう。
That saved a wretch like me!
神様の恵みによって、わたしのようなみじめな人間も救われました。
I once was lost, but now am found;
昔は道に迷っていましたが、今は神様がわたしを見つけてくださいました。
Was blind, but now I see.
昔は目が見えませんでしたが、今は目が見えるようになりました。
（和訳は中澤幸夫、2013年、24 頁）

最後の行は抽象的な表現で、何が見えるようになったのかは明示的に書かれていません。一体何が見えるようになったというのでしょうか。「奴隷貿易に深くかかわった自分のような極悪漢でさえ救ってくださった神様の深い愛情と豊かな恵みをはっきりと見えるようになった」と、解釈してよいと思います。

最近世界的に注目されている Black Lives Matter（BLM）運動への共感を込めてこの曲を選びました。

テニスの大坂なおみさんは、皆さんと同じくらいの年齢です。10 月 16 日が誕生日でして、本日から2日後に 23 歳となるのですが、彼女も、Black Lives Matter（BLM）運動に熱心で共感を示しており、素晴らしいと思います。テニスが上手ということ以上に、彼女の共感する力と勇気と行動力に対し、尊敬の念を強くもっております。

**新型コロナパンデミックの拡がりと大学への影響**

さて、新型コロナウイルス感染症は日本でもまだまだ収束の兆しがみえません。ジョンズ・ホプキンズ大学のホームページによりますと、コロナウイルス罹患者の世界累計は、3,800万人。死亡した患者さんは、世界全体で100万人を超えました。ヨーロッパ、特にスペイン、イギリス、フランスでも新規感染が再び増えています。

そのような状況のため、留学を希望する皆さんも現在、出国できない状況が続いていますし、また同志社大学で学びたいと希望している外国人留学生も半分以上が日本に入国できていない状況が続いています。

ご承知の方も多いと思いますが、本学はドイツ南西部に位置するテュービンゲン大学の構内にEUキャンパスを2017年に開設し、2019年度から本格的に学生を送り出し始めました。今年2020年の3月にも 15 名の学生を送り出したのですが、新型コロナウイルス感染がドイツでも拡がってしまったため、3週間で緊急帰国せざるを得ませんでした。非常に残念なことでした。新型コロナウイルス感染症が一刻も早く収束して、海外との交流活動や留学が再開できることを切にお祈りしています。

**めぐる命の輪**

本題に入ります。今日のテーマは、「命を消費する社会」とさせていただきました。

私たちは食べ物を食べることなしでは、自分の命を持続させ、育むことができません。
生きることは、食べることです。そして、すべての食べ物は、命をもっていた生物たちです。

魚も肉も野菜も米も、すべてが生命体です。

人が生きるということは、命をいただくことです。私たちの命は、多くの命に支えられています。

ですので、食事をいただく時には、必ず「いただきます」と、口ずさみますが、正確には、「これからあなたの命をいただきます。ありがたくいただきます。」という意味です。

このことを理解すれば、食べ物のありがたさが理解でき、食べ物を粗末にしてはいけないのだと分かるようになると思います。

食物連鎖という言葉を聞いたことがありますね。命は別の命に受け渡され、やがてその命はまた別の命に受け渡されます。「命の輪」がめぐりめぐっているのです。人間もその生命の輪の中にあります。

その出発点は、緑色植物です。太陽エネルギーと土壌中の栄養分、二酸化炭素と水を使って光合成を行い、酸素と水蒸気とともに有機物を作りだし、自分の身体を構築します。それを草食の小動物が食べます。それを肉食小動物が食べ、それをもっと大きな肉食動物が食べます。それらの死骸は、土壌に還って、「分解者」と呼ばれる微生物たちが、細かい分子に分解し、緑色植物の栄養源となります。

他の生き物の命をいただいて自分の命を育む、これは何億年も続いている自然の摂理です。神様も「他の生き物の命をいただいて自分の命を育む」という行為を正当な正しい行為として良しとしてくださっています。

**自然の摂理に反する命の消費**

今日のテーマである「命を消費する」とは、自然の摂理・道理に合致した意味、すなわち、他の生き物の命をいただいて、自分の命を育む行為、という意味もあります。

しかし、今日私が皆さんに注目していただきたいことは、「自然の摂理に反する命の消費」のことです。別の言い方では、「自然の摂理から逸脱する形での命の消費」のことです。すなわち、「自然の摂理とは相いれない、すなわち、命の輪がつながらない、命の犠牲」。もっと別の表現では、「命の受け渡しができないかたちでの命の犠牲」です。神様もお嫌いになる行為です。

その典型は「環境汚染・環境破壊による人命の損失」、かつては環境汚染、環境破壊は「公害」と呼んでいた現象です（戦争は環境破壊の最たるものでもあります）。

**水俣病患者発生を良しとした政府の決断**

皆さんは熊本県の水俣市の水俣病事件をご存知ですね。戦後日本の四大公害事件のひとつです。今から 70 年ほど前、1950年頃、水俣では、猫の異変が見られるようになりました。痙攣、鼻を地面につけて小躍り、気が狂ったように海に飛び込んで溺れてしまうなどの現象がでてきました。そのうちに人間にも奇妙な症状が現れ始めました。

64 年前、1956年4月末に新日本窒素肥料水俣工場付属病院に5歳の少女が担ぎ込まれました。田

中静子さんです。食事の時にお茶碗や箸を落としてしまったり、歩行障害もありました。一週間後には妹の実子さん（当時2歳 11 か月）も入院しました。病院長の細川一博士は、5月1日に保健所に届け出ました。これが、水俣病の公式確認といわれています。その後も患者がどんどん増え続けました。

原因は何だったのかと申しますと、新日本窒素肥料水俣工場のアセトアルデヒドの製造工程で触媒として使用されていた無機水銀が有機水銀（メチル水銀）に変化して、工場廃液に流れ込んだためでした。

水俣病の公式確認から3年後の1959年には、熊本大学医学部の水俣奇病研究班が、新日本窒素肥料水俣工場の工場廃液に含まれていたメチル水銀が水俣病の原因であることを突き止め、発表しました。

ところが、それに反論する人たちが現れました。新日本窒素肥料株式会社（現・チッソ株式会社）と化学工業界、東京工業大学教授の清浦雷作氏、通商産業省（現・経済産業省）は、協力して反論を展開したのです。また東京大学医学部名誉教授の田宮猛雄らの学者が、因果関係が不明になるように画策しました（宇井、2002年、64 頁）。

そのような状況になりましたので、熊本大学医学部の原因発見の後、9年間にもわたり、新日本窒素肥料水俣工場の操業は続けられたのでした。その間に患者は急増していきました。

なぜ操業が認められ続けたのか。それは、新日本窒素肥料が全国のアセトアルデヒド（塩化ビニールの原料）の生産シェアの大部分を生産していたため、政府は操業を停止させたくなかったのです。多少の犠牲を生じさせたとしても工場の操業を停止させないことが政府の明確な意志であったのです（栗原、2000年、13 頁）。

**アスベスト公害**

このように、政府が工業製品の生産を停止させたくないために、人々の命を犠牲にしてしまったケースは他にもたくさんあります。

たとえば、アスベスト公害です。アスベストは、極微な繊維状物質、石綿のことです。耐熱性、耐火性などに優れ、建材やブレーキ、下水のコンクリート製の管など3000種類の製品に使用されてきました。

ところが、中皮腫という極めて珍しいガンを誘発することが分かりました。それも潜伏期間は平均 35 年前後です。1964年、アメリカ人医学博士 Irving J. Selikoff（アーヴィング J. セリコフ）により危険性の指摘があり、アメリカでは即時、製造と使用が禁止されました。

しかし、日本では、企業も政府もその脅威を過小評価しました。代替品が無い、注意深く扱えば大丈夫といわれ、日本では1971年から規制が始まるものの、全面禁止となったのは2008年のことです。そうこうするうちに1995年～2004年までの中皮腫による死亡者数は、7,013人。死亡者数はその後増え続けました。2008年には1,170人、2013年に1,410人、2018年に1,512人と、増加し続けています（厚生労働省、2019年）。

アスベストについても、日本政府は、アスベストを多用している工業にダメージを与えたくないという理由により、条件付きで製造と使用を認め続けました。その結果、多くの中皮腫患者さんが亡くなってしまい、今も亡くなる方が増え続けているのです。

**薬害エイズ事件**

最後に、薬害エイズ事件について述べます。1970年代後半～80 年代に発生した事件です。出血すると止まりにくくなる血友病の患者用の薬剤「非加熱製剤」を株式会社ミドリ十字などの製薬会社がアメリカから輸入していました。1970年代後半にはエイズがアメリカなどで急増しました。アメリカでは非加熱製剤の危険性が指摘されていたのに、日本政府は禁止を先送りしました。それによって多くの血友病患者が命を落としたのです。

政府に助言していた薬事審議会の表向きの理由は、加熱製剤の有効性が証明されていないからとされていますが、実態は、膨大な在庫を抱えていた製薬会社に損をさせないためという説が有力です。人の命よりも製薬会社に損を出させないほうが大事だったのです。

以上の事例に共通する考え方は、経済や生産力を維持することが至上目的化し、経済や生産のためであれば多少の犠牲は我慢しろという態度です。これをアメリカのカリフォルニア州、クレアモント神学校名誉教授でプロセス神学者の John B. Cobb, Jr.（ジョン B. カブ）先生は、「経済至上主義」と命名しました（Cobb, 1999, p.28）。

**新型コロナウイルス感染症問題と公害・薬害の共通点**

新型コロナウイルス感染症の第二波が、2020年夏に東京都や大阪府などの大都市圏に到来しました。それにもかかわらず、日本政府は感染拡大を抑制するための移動自粛を要請するどころか、東京都を除く「Go To トラベル」キャンペーンを前倒し実施することによって経済の活性化を優先しました。10月からは東京都を含めて実施し始めました。

人々の往来と接触が増えることにより感染が拡がることが予想されます。高齢者のみならず基礎疾患を持った人や肥満の人は重篤化しやすく、それらの人たちの生命が危険にさらされているのです。私自身も心臓に疾患があるため、恐怖を感じています。

公害の特徴である経済や生産力を維持することが至上目的化し、経済や生産のためであれば多少の犠牲は我慢しろという政府の方針が「Go To トラベル」の本質だと考えられます。

日本政府は、経済至上主義から脱却し、人間の生命を守ることを最優先とするべきであると考えます。経済も重要ではありますが、経済を回していくための方法は他にもあるはずです。たとえば水俣病の場合、疑義がある工場の操業を停止させ、代替的工程を活用させるべきでした。コロナ対応では、無理に経済を刺激する方法ではなく、コロナ特需を享受する業界（製薬、ゲーム業界など）の法人税率を高め、低迷している業界（観光、旅行、旅客運輸、外食産業など）への支援に回す方法が考えられます。

**「エシカル・コンシューマー」として生き続ける**

最後にもう一点申しあげます。日本社会が「経済至上主義」から脱却するためには、政府に任せてばかりはいられません。私たち個人個人も、実はその経済のあり方に影響を与えることができるのです。「エシカル・コンシューマー」という言葉を聞いたことがありますか。倫理的消費者という意味です。企業の行動を監視し、命を疎かにしている企業があれば告発し、その製品の不買運動を行うことができます。不買運動は、ボイコットと英語で言います。日本で最初の不買運動は、森永ヒ素ミルク中毒事件が発生した時に

起こりました。森永乳業がヒ素の混入した粉ミルクを販売して、多くの被害者が生まれました。しかし、森永乳業は責任ある対応をしようとしなかったため、全国の主婦が被害者たちと連帯し、責任を認めるまでは森永製品を買うのを止めようと立ち上がったのでした。結果的に、被害者たちの訴えが認められたのでした。

学生のみなさん一人ひとりが、命を無駄に犠牲にする日本社会を変革するインフルエンサーになっていただけたら、嬉しく思います。大いに期待しております。

祈りを一緒に捧げましょう。

本日は、チャペル・アワーにて、話をする機会を与えてくださりありがとうございました。

アメリカでは、いまだにアフリカ系移民の命が軽く扱われています。その不正義を解消するために多くの人々が立ち上がり、連帯しました。テニスプレーヤーの大坂なおみさんもその一人でした。

命が軽く扱われているのはアメリカだけではありません。日本でも救済されないままの公害被害者はまだまだたくさんいます。アスベストの全面禁止が遅れたためにたくさんの命が今この瞬間も奪われています。このような社会のあり方を変えていくために、私たち一人ひとりが、政府の政策に対し、それがもし間違っているのであれば、正々堂々と意見表明を行うことができますように。意見を表明したことで不当な差別や介入を受けることがありませんように、被害者に連帯することができますように。大坂なおみさんのようなロールモデルとなることができますように。一人ひとりに勇気と力を与えてください。この感謝と願いを主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。

〔参考文献〕

宇井純「日本の公害体験」吉田文和・宮本憲一編『環境と開発』岩波書店 2002年
Cobb, John, B. Jr., The Earthist Challenge to Eonomism: A Theological Critique of the World Bank., St. Martin’s Press, 1999.
栗原彬編『証言 水俣病』岩波新書 2000年
厚生労働省「都道府県（特別区―指定都市再掲）別にみた中皮腫による死亡数の年次推移（平成七年～三〇年）―人口動態統計（確定数）より」2019年
（https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/chuuhisyu19/dl/chuuhisyu.pdf 最終閲覧日 2020年10月13日）
「Amazing Grace」（作詞 John Newton 作曲 Verginia Harmony）
中澤幸夫『アメージング・グレース：光と希望を！ 絶望から救われた奴隷商人の物語』女子パウロ会 2013年
JOHNS HOPKINS UNIVERSITY & MEDICINE COVID-19 Dashboard
（https://corovarivus.jhu.edu/map.html 最終閲覧日 2020年10月13日）

2020年10月14日 今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録